

乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドラインについて

今般、世界保健機関（WHO）及び国連食糧農業機関（FAO）が「乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドライン」を作成しました。

わが国でも、調乳方法等の体系的なガイドラインはこれまでなかったことから、医療機関及び家庭における乳児用調製粉乳の衛生的な取扱いについて普及啓発を行うため、本ガイドラインの仮訳を作成し、都道府県等及び関係団体あて情報提供を行いますのでお知らせします。

なお、本ガイドラインの仮訳（全文）については、厚生労働省のホームページに掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/qa/070604-1.html>

記

〔本ガイドラインにおける乳児用調製粉乳の調乳のポイント〕

（乳児用調製粉乳を使用する父母の方々へ）

○乳児用調製粉乳の調乳に当たっては、使用する湯は70℃以上を保つこと。

（注）高温の湯を取り扱うので、やけどに注意すること。

○調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは廃棄すること。

※乳児用調製粉乳の哺乳ビンを用いた調乳方法の詳細については、別添を参照してください。

- ・ 本ガイドラインは、乳児用調製粉乳について、製造工程で無菌にすることは困難であり、また、開封後に病原微生物に汚染されるおそれもあることから、乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いの方法を定めたものであること。

特に、*Enterobacter sakazakii* による乳児のリスクを最小限に抑えるために作成されたものである。

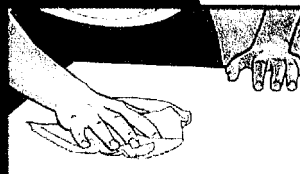
- ・ 本ガイドラインの対象となる乳児は12ヶ月齢以下の乳児であること。

（参考）育乳用調製粉乳中の*Enterobacter sakazakii* に関するQ&A（仮訳）

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/qa/050615-1.html>

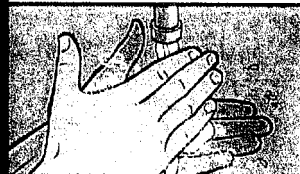
乳児用調製粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドラインの概要 (FAO/WHO共同作成)

哺乳瓶を用いた粉ミルクの調乳方法



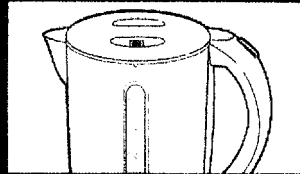
Step 1

粉ミルクを調乳する場所を清掃・消毒します。



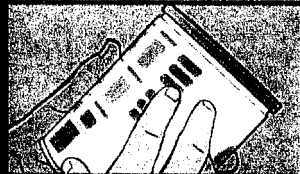
Step 2

石鹸と水で手を洗い、清潔なふきん、又は使い捨てのふきんで水をふき取ります。



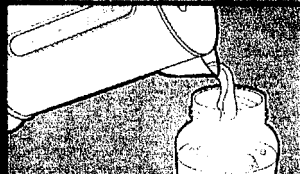
Step 3

飲用水※を沸かします。電気ポットを使う場合は、スイッチが切れるまで待ちます。なべを使う場合は、ぐらぐらと沸騰していることを確認しましょう。



Step 4

粉ミルクの容器に書かれている説明文を読み、必要な水の量と粉の量を確認めます。加える粉ミルクの量は説明文より多くても少なくてもいけません。



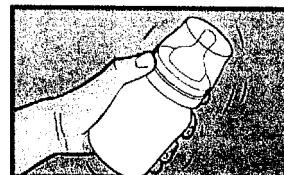
Step 5

やけどに注意しながら、洗浄・殺菌した哺乳瓶に正確な量の沸かした湯を注ぎます。湯は70℃以上に保ち、沸かしてから30分以上放置しないようにします。



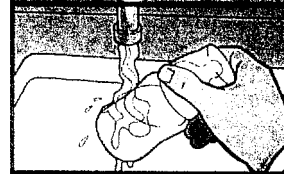
Step 6

正確な量の粉ミルクを哺乳瓶中の湯に加えます。



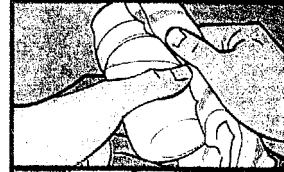
Step 7

やけどしないよう、清潔なふきんなどを使って哺乳瓶を持ち、中身が完全に混ざるよう、哺乳瓶をゆっくり振るまたは回転させます。



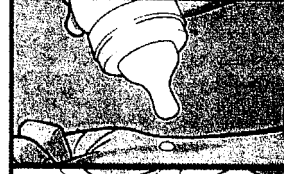
Step 8

混ざったら、直ちに流水をあてるか、冷水又は氷水の入った容器に入れて、授乳できる温度まで冷やします。このとき、中身を汚染しないよう、冷却水は哺乳瓶のキャップより下に当てるようにします。



Step 9

哺乳瓶の外側についた水を、清潔なふきん、又は使い捨てのふきんでふき取ります。



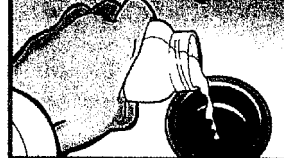
Step 10

腕の内側に少量のミルクを垂らして、授乳に適した温度になっているか確認します。生暖かく感じ、熱くなければ大丈夫です。熱く感じた場合は、授乳前にもう少し冷まします。



Step 11

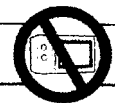
ミルクを与えます。



Step 12

調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは捨てましょう。

注意：ミルクを温める際には、加熱が不均一になったり、一部が熱くなる「ホット・スポット」がでる乳児の口にやけどを負う可能性があるため、電子レンジは使用しないでください。



※①水道水②水道法に基づく水質基準に適合することが確認されている自家井戸等の水③調製粉乳の調整用として推奨される、容器包装に充填し、密栓又は密封した水のいずれかを念のため沸騰させたものを使用しましょう。